

## 三匹の亀で未来を拓く

鶴は千年、亀は万年という言葉聞いたことがありますか。亀は長生きの象徴です。私たち人間も、昔に比べるととっても長生きできるようになりました。特に日本人は世界一の長生きです。

世界一の長生きだった田中かねさんという方です。残念ながらちょうど一週間前にお亡くなりになってしまいました。なんと119歳だったそうです。

でも、みんなはこのくらいの年齢まで生きるのが普通になると言われています。そして、みんなが大人になる頃には、こんな社会が当たり前になります。

(内閣府作成 Society 5.0 の動画を再生)

さて、こんな世の中をステキに生きていくためには、こういう力が必要です。

難しい漢字ですが、「ミライヲヒラク」と読みます。みんなで一緒に読んでみましょう。

「未来を拓く」



未来を拓くためには、それを助けてくれる三匹の亀が必要になります。これから三匹の亀とそれをゲットする方法を教えますね。一匹目の亀はこれです。

「挑む」亀。成功するに決まっていることは「挑む」といいません。失敗するかもしれないことに挑戦することを「挑む」と言います。この亀をゲットするポイントは、自分のめあてに向かってがんばり続けることです。ちょっとがんばるだけなら、誰でもできます。でも、ほとんどの人は途中で諦めてしまうのです。諦めることなく頑張り続ける人だけが夢を叶えることができます。



二匹目の亀はこれです。「伝える」亀。自分の思いや考えを相手に伝える亀ですね。この亀をゲットするためにいちばん大切なのは、あいさつをすることです。あいさつは自分の思いや考えを伝えるための最高の武器です。みなさんは「さいこう」の挨拶ができていますか。

三匹目の亀はこれです。「高め合う」亀。「高め合う」亀をゲットするポイントは、自分と人との「ちがいを大切にすることです。赤と赤を混ぜても赤にしかありませんが、赤と黄色を混ぜると、赤でも黄色でもないオレンジ色ができます。亀田小学校には456人の子供たちがいますが、みんな違います。顔も違う、性格も違う、得意なことも違う、苦手なことも違う……。だから混ぜたときに新しい色ができます。高め合うことができるのです。違うってステキなことですね。



亀田小学校ではありませんが、三匹の亀をゲットした男の子を紹介しましょう。右側の人を知っていますか。サッカー界のスーパースタークリスティアーノ・ロナウドです。数年前のことです。この男の子は、ロナウドにインタビューできるチャンスを掴みました。すると、なんとこの男の子はお

父さんの勧めでポルトガル語でインタビューすることに挑んだのです。

紙を見ながら話す少年のポルトガル語は上手ではありません。周りの大人は笑いました。すると、ロナウドはこう言ったのです。

「なぜ笑うんだ。ぼくは彼のポルトガル語を理解できる。すごく上手だよ。」

ロナウドは、失敗を恐れずポルトガル語に挑んだこの少年を褒めてくれたのです。その時の様子です。

(動画再生)

ポルトガル語でのインタビューに挑んで、自分の気持ちを伝えた当時6年生だった少年…

去年、こうなりました。チームメイトと高め合い、全国高校サッカー選手権大会で優勝したのです。去年1月のことです少年がゲットした三匹の亀「挑む」「伝える」「高め合う」

がこの男の子の未来を拓いたのですね。

みなさんも「挑む」「伝える」「高め合う」これを繰り返して、未来を拓きましょう。三匹の亀をゲットできるかどうかはみなさん次第です。